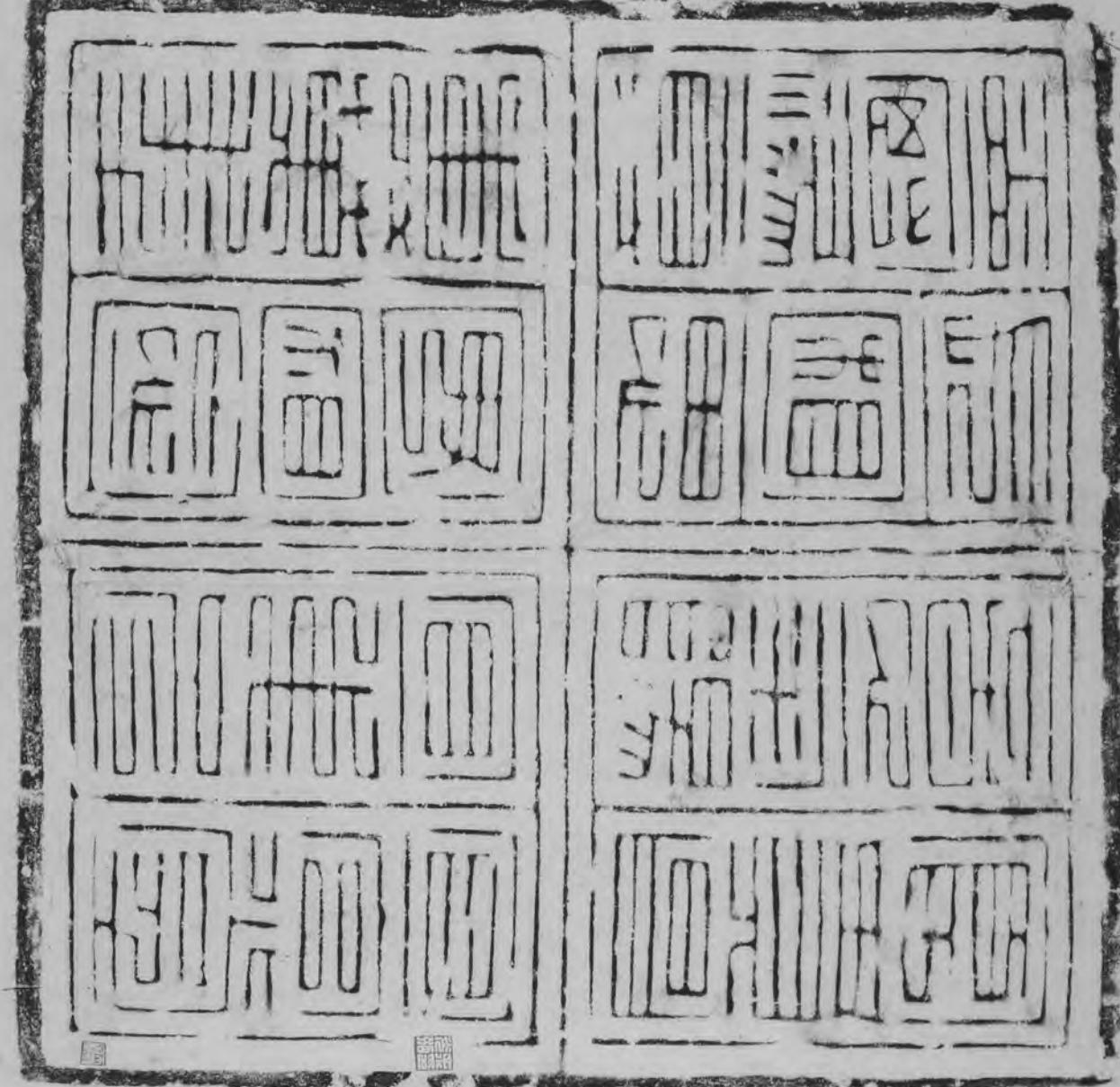


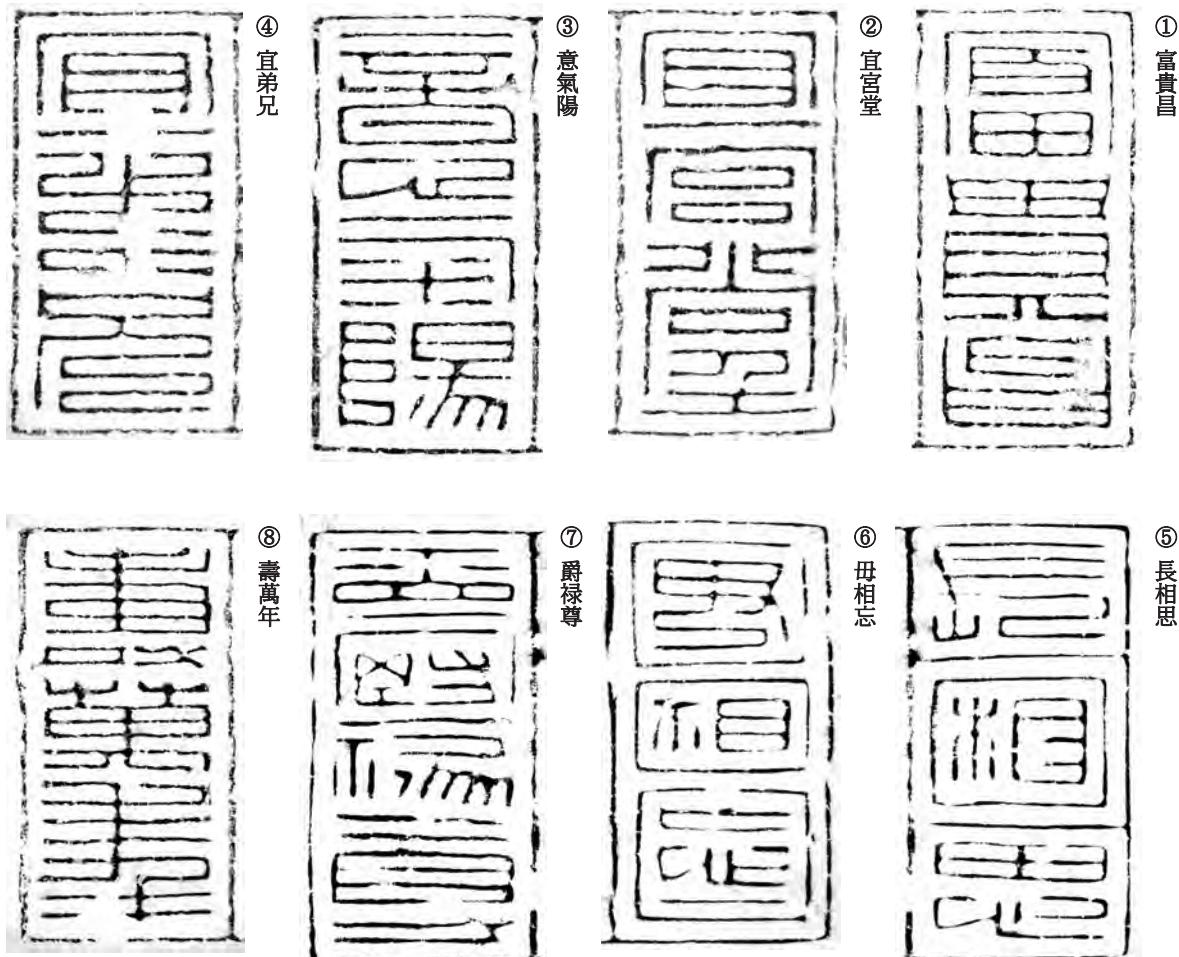
此二十四舍復博光情形甚殊清流場附者雖也般之些十得正而或故昔人于縣上歲  
支本末廉能根柢全素才名固其一部公澤之酒小三處事然惟通之易游龍威寺拂其一入  
都江辛德海內淡其其號者以游歲寺僧雪生者而歲者辟在角微湖岱房舍指年助生人合  
之毛大其一列據其東湖號者以游歲寺僧雪生者而歲者辟在角微湖岱房舍指年助生人合  
酒泊國難人據而其不加程止后佐六令之濟松揚人聞唐石川廟祭客今勿仍焉點一酒清東未  
道酒泊國難人據而其不加程止后佐六令之濟松揚人聞唐石川廟祭客今勿仍焉點一酒清東未



# 「秦漢時代の瓦当と磚文」

## ⑬ 「二十四字吉語磚」 漢時代

解説図版：二十四字磚文を、3字句ごとに分割（①～⑧）して示した。



最も大きい部類に属する文字磚である。四十五センチほどの正方形である。清末民国期に四川省から出土したとする大変有名な多字数の文字磚であるが、過去に影印され紹介されたものは、断裂痕などから同一磚の拓本と考えられるものが多いため、多字数で吉語であり、本物が少ない事から翻刻拓が多くみられる。主図版①に示したのは、清末民国期の金石家・林思進の題記ある旧蔵拓本である。全体を縦横に四分割し、そこに縦に三字句を平行して並べてある。瓦当文や磚文に多くみられる吉語である。解説図版には、三字句、八句を分割して示した（①～⑧）。縦横の界線を巧みに利用して、漢印様な文字布置を示している。字画の少ない「相」「母」「忘」の文字は周囲を線で補ったりする工夫が種々見られる。三字で一句を成し、八句からなる。

（釈文）富貴昌 宜宮堂 意氣陽

宜弟兄 長相思 母相忘  
爵祿尊 壽萬年

伊藤滋（書齋名・木鶴室）

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2018)



2017・現代女流書展「心道嶺美の句」

齊藤理舟書



齊  
藤  
理  
舟

### 詩文書は楽しく…

私は書道のお付き合いは、何年位になるでしょうか。高校生となつて種谷扇舟先生のきめ細かい授業を受け、書の魅力と奥深さを知りました。しかし卒業後は書とは離れた生活となり、書く事も無い毎日でした。その後社会人となり自由な時間が多くなった時、また筆を持ってみたりなり種谷先生のもとへ伺いました。まだまだ展覧会への出品も恐る恐るであった頃、毎日書道展に近代詩文書部が創設されました。種谷先生も創設に当って非常にご尽力されたとお聞きしています。同時だたでどうか?書道芸術院にも現代詩文書部が出来、当然の事ながら種谷先生は詩文書部に移られました。私はと言えば、漢字部でやっと出品していました身でした。詩文書は分らない:でも先生が移られたのだからその方が…と思い、詩文書部に移りました。しかし「詩文書とは、漢字・仮名交じりの、現代に呼応した書である」と標榜しています。今まで、やっと漢字作品を出品していました身には詩文書を書く事は大変な思いでした。毎日展にも書いてはいましたが、とてもお粗末な作ばかりでした。種谷先生から「平板名をもう少し考えた方が良いね」とアドバイスを受けた事を覚えてます。この悩みは現在まで続い

ています。先生がご存命であれば、今でも同じ言葉を戴いているに違ありません。私には永遠の課題です。

詩文書作品としては、何を書くのかが重要となってきます。主に作家による詩文、俳句、短歌等を使わせて戴いておりますが、まずはその作家・その作品の境地に入り込める事が出来るかが、最大の問題だと思います。今まで使った題材の中で一番のお気に入りは、昨年の現代女流書展で使わせて戴いた、心道嶺美さんの句「降る雪は滅びし星の形見かも」です。この句を本の中で見付けた時は「なる程そうかも知れない。きっとそとも宇宙的発想に感動しワクワクしてきました事を覚えていて。こう書かせて戴く事に致しました。何なると作品書きも楽しくなっています。また、最近は旅行に出た時に味わった感動を書く事も多くなりました。風景から、体験から受けた感動を、自分の言葉で残しておきたい…と思うからです。これからも詩文書を楽しく書いてゆきたい…と思っていますが、字形や線に私の願いを乗せる事ができるでしょうか?



春

## 謹賀新年 戊戌歳旦を寿いで

明けましておめでとうございます。  
2018年、平成30年の新しき年を迎え、皆様のご多幸をお祈りします。昨年は書道芸術院創立70周年記念事業の展開に明け暮れた一年でした。2月の本展終了後、3月より全国役員作品巡回展・南関東総局展を皮切りに、全国13会場での開催は11月初旬の山陰支局展でめでたく終了しました。その間、全国各地の開催地では地元会員作品展を併催、作品解説会、席上揮毫会など充実したイベントも行われ、地元ご来賓各位をお招きしての祝賀懇親会も盛大に挙行され、各総支局長はじめ役員各位のご努力ご協力に深く感謝いたします。

また10月中旬、オーストリア・ウィーン市での海外展は10年ぶりとなりましたが、日本大使館、会場ご提供のヘルナルス市民大学の絶大なご協力ご支援の下、大成功を収めることができました。20回目を迎えた「国際交流ウイーン書道展」も四国支局谷脇梅翠先生の永年のご努力で継続していただきました。本年より本院主催事業として継続して開催する予定です。

第70回書道芸術院展作品集・70年史の発行も今月中には会員諸氏へお届けできることとなりました。編集担当の役員諸氏に感謝申し上げます。第71回書道芸術院展も会期が約1週間早まり2月6日より開催いたします。ご高覧をお願いします。皆様方の倍旧のご支援ご協力を切にお願いし年のご挨拶とします。

公益財団法人書道芸術院理事長  
平成30年元旦

辻元大雲  
役員一同

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 第71回書道芸術院展鑑別・審査

創立70周年記念事業の全国13会場での巡回展も無事終了し、70回展作品集・70年史の発行を待つばかりとなった12月1日、第71回書道芸術院展一般公募、無鑑査作品の搬入

12月16・17日浅草橋共和国会館にて鑑別審査が行われた。

昨年より一般公募は20余点の減少であったが、無鑑査作品は約100点の減少となり、無鑑査の落ち込みが顕著で残念であった。搬入一覧は別表を参照いただきたい。

一般公募・無鑑査と当番審査員、各部委員、審査部・総務部など合わせて総160名余が一日間にわたり慎重にまた広い見地に立っての審査を行った。事務作業では膨大かつ細かなチェックが要求され大変であったが、二日前の午前中にはほぼ作業も終了した。

今後明けには審査会員・審査会員候補作品の書類搬入が1月19日、作品搬入1月27日と続き、特別賞選考1月28・29日、陳列2月4日、2月6日から11日までの会期が本番を迎える。

今回から作品解説会を別掲の通り回数を増やすこととなつた。

・2月6日(火) 14:00~15:30

一般公募・無鑑査の上位入賞作品を

中心として各部審査主任又は副主任と常務理事が解説を担当する。

・2月9日(金) 15:00~16:30

同様に開催。

・2月11日(日) 12:00~13:30

主要役員作品・春華賞など上位入賞作品を中心に、第1室にて行う。解説は常務理事、特別賞選考委員代表担当

2月10日には帝国ホテルにて学生展・本展の表彰式、祝賀懇親会が午後より

行われる。多数のご参加を。

は常務理事、特別賞選考委員代表担当

2月10日には帝国ホテルにて学生展・本展の表彰式、祝賀懇親会が午後より

行われる。多数のご参加を。

審査部長 下谷洋子	・審査部長 下谷洋子
陳列部長 赤平泰処	・陳列部長 赤平泰処
運営委員 小竹石雲、小伏小扇	・運営委員 小竹石雲、小伏小扇
千葉蒼玄 ほか	・千葉蒼玄 ほか
参与会員 石田春窓	・参与会員 石田春窓
会員 長峯万扇 藤原小翠	・会員 長峯万扇 藤原小翠
塩澤美紅 京 紗子	・塩澤美紅 京 紗子
都丸みどり 治田芳江	・都丸みどり 治田芳江
朝倉希代子 岩崎陽光	・朝倉希代子 岩崎陽光
金濱珀輝 藤原紅雲	・金濱珀輝 藤原紅雲
会友(略)	・会友(略)

朝倉希代子 岩崎陽光  
金濱珀輝 藤原紅雲  
都丸みどり 治田芳江  
都丸みどり 治田芳江  
長峯万扇 藤原小翠  
塩澤美紅 京 紗子  
都丸みどり 治田芳江  
朝倉希代子 岩崎陽光  
金濱珀輝 藤原紅雲  
都丸みどり 治田芳江  
長峯万扇 藤原小翠  
塩澤美紅 京 紗子

朝倉希代子 岩崎陽光  
金濱珀輝 藤原紅雲  
都丸みどり 治田芳江  
長峯万扇 藤原小翠  
塩澤美紅 京 紗子

## 第53回書道協会理事会開催

12月3日、高野山書道協会定例理事会が開催され、主に第53回展開催要項、

主要人事などが決定した。

・審査委員長 辻元大雲

・審査副委員長 種谷萬城ほか

・大会運営委員 下谷洋子ほか

・当番審査員 辻元大雲、下谷洋子

・種谷萬城、小林琴水

・作品締切 30年5月18日

・院関係団体の出品協力を是非お願ひ

したい。出呈要項などは来年3月頃。

例年正月、全国各地は書で彩られる。

東京では見逃せない書展の目白押し。

2018毎日新春展など新年は書で

の定例理事会が開催され、主に来年度の事業計画・予算案などが審議された。

第70回記念展を迎える主要人事、記

念事業案など

・現代書道二十人展

1月2日~8日 新宿高島屋

1月11日~16日 大阪高島屋

2月24日~3月4日 名古屋松坂屋  
本院から下谷洋子が出品。

2018現代の書新春展

1月3日~9日

和光会場 辻元大雲・下谷洋子出品

9日下谷洋子ギャラリートーク

セントラル会場 石井明子・大野祥

雲・小竹石雲・後藤大峰・坂本素齋・

新井京華・石井明子・板垣洞仙

種谷萬城・真下京子・村野大仙出品

セントラル会場 石井明子・大野祥

# 漢字(四)

## 小伏小扇



「登龍」

小伏小扇書

刀を筆にかえて刀意刀刻を再現する  
ことは言うほど容易ではありません。  
刀のように、骨に刻み込むほど強烈  
さを持った筆は存在しません。あとは  
執筆と用筆法を駆使して、力強く剛直  
な線条を書き出して、刀意を  
連想させるということになります。

毛筆は、執筆の角度によつ  
て毛の弾力に変化が出来ます。  
従来の執筆では、直筆が最も  
強い線条が出るように説明さ  
れていましたが、甲骨文を臨  
書する限りにおいては、直筆  
より執筆の角度を低くする方  
が、刀意を持った線条に近づ  
くように思います。

刀は通常、縦画は縦画ばかりを  
彫り、横画は横画ばかりを  
彫っていきます。この彫り方  
のほうが、まっすぐ彫れて刻  
線に力があります。甲骨文も  
同じ方法で彫られ、結果とし  
て出来上がったのが、甲骨文  
の書体であるといわれていま  
す。

刀を筆にかえて刀意刀刻を再現する  
ことは言うほど容易ではありません。  
刀のように、骨に刻み込むほど強烈  
さを持った筆は存在しません。あとは  
執筆と用筆法を駆使して、力強く剛直  
な線条を書き出して、刀意を  
連想させるということになります。

毛筆は、執筆の角度によつ  
て毛の弾力に変化が出来ます。  
従来の執筆では、直筆が最も  
強い線条が出るように説明さ  
れていましたが、甲骨文を臨  
書する限りにおいては、直筆  
より執筆の角度を低くする方  
が、刀意を持った線条に近づ  
くように思います。

# 21世紀の書 —私の主張—



国際現代書道展 大賞受賞作品

書とは——念一心の世界

# 現代詩文書(四)

## 西岡雨瑠

西岡雨瑠書

北の1月は、国際現代書道展で幕が  
開ける。道内は、北海道書道展との二  
大書展が主流。雨城社中は、全員が国  
際現代書道展に出品します。雨城先生  
と私はこの審査会員。部門は、漢字・  
かな・調和体・篆刻・刻字・大字書・  
写経の7部門。

約200点に及ぶ作品を、50数名の道内  
作家が2日間で審査します。私は傍聴  
にも、平成15年、準大賞、17年には、  
大賞をいただいた。

この頃、東山魁夷の絵と、その文に  
とりつかれていた。あの繊細な四季の  
色彩と澄明な文章の巧みに駆使するこ  
の作家の作品に、あるいは作家の心に  
魅かれた。しばし夢中で、体力、気力、  
そしてテンションをハイにして、心の  
炎を燃やしていた。彼の豊醇な文章  
(ことば)は日本人の持つ奥深い信仰  
の祈りにも通じるような気がする。今  
は制作へのバックボーンとなっている。

大賞受賞作品は、絵筆を筆に、キャ  
ンバスを紙に置き換えて東山魁夷の絵  
を自分の心に映し出すような気持ちで  
取り組み、書き上げた。50数名の審査  
員の前で師が宣告した言葉は、「今日か  
ら一切句は書かない。一人で歩け。」  
牙え渡る声は励ましとも戒めとも。師  
は制作への道しるべを「念一心で残し  
てくれた。ここから、「わが道はひと  
り」の模索が始まった。

# 書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

平成29年11月23日(木・祝)  
於 上野精養軒

## 「戦国・秦の木竹簡にみる字形変遷の実態」 —字形はどうして変わるのでか—

講師 新井光風先生

### △公開講演会△

理事長 辻元大雲

本院創立記念日恒例の公開講演会が11月23日、上野精養軒にて講師に日展常務理事・謙慎書道会顧問ほかを務める新井光風先生をお迎えし、「戦国・秦の木竹簡にみる字形変遷の実態」と題して開催された。

当日午前中には定例理事会を顧問、評議員各位にオブザーバーとしてご参加いただき開催。71回書道芸術院展開催細目、関係人事、単位認定講習会

(高知) 開催要項などを審議した。

講演会は午後2時より1時間半の予定を多少オーバーして、会場満席の250名余が参集して充実、熱氣あふれる講演会となつた。新井先生自らパソコンを操って、具体的なスライド映写を中心に分かりやすく、また興味深い文字変遷の実像を展開してくださった。

戦国・秦代の簡牘類に焦点を当て、特に早書き、円転のリズムにより発生した字形の変化、日常的な字形記述が、書き方や心構えに根本的な違いを感じさせる原因。日常筆写体の肉筆と草書体の原型を生み出す実態など、特

具体的な映写により文字毎の変わり様を分かりやすくお話しいただき、参加者は目から鱗が落ちる思いを実感した講演であった。

先生の博学な知識、豊富な経験、何より書作家として作品発表する根本的な姿勢、理論、眼識に裏打ちされた内容は、説得力と気迫に富んだ情熱をもろにぶつけられた思いがした素晴らしい充実、内容の濃い講演であった。

講演終了後は会場を移して院創立記念の祝賀懇親会が新井先生を囲んで賑やかに開催された。以下の報告は別記を参照いただきたい。



新井光風先生 紹介



プロジェクターによる説明



講演会風景

## 懇親会

片岡豪峰

創立記念日の行事として、理事会・

公開講演会に統いて、多くの皆様に参加いただいて懇親会が行われました。

懇親会は(公財)書道芸術院辻元大雲理事長の挨拶、講演に統いて参加いたしました。

新井光風先生にご挨拶をいただきました。次に毎日書道会の西村修一専務理事の乾杯でとても和やかな雰囲気の中で会が始まりました。

地から会員が集う数少ない機会のため

会場のあちらこちらで話の輪が広がっていました。当日、参加されている総

局支局長の先生方からはこの1年の総報告として巡回展報告・行事報告・行事予定・展覧会案内等が紹介さ

れました。また、嵯峨大拙理事が宮城県教育文化功労を、種谷萬城理事が千葉県教育委員会より教育功労者表彰を、名越蒼竹先生が鳥取県教育委員会表彰と院の理事の先生方が各地で表彰されましたことをご披露いたしました。

さらに北関東総局から今回、「世界の記憶」(世界記憶遺産)に上野三碑が登録さ

れたことの報告、四国支局からは来年度の単位認定講習会の案内などいろいろな報告・案内がありました。

辻元理事長からは下谷洋子常務理事が現代書道二十人展に選出されたことのお披露目があり、1月3日から毎日

書道会主催「現代の書新春展」、2月6日から「現代女流書100人展」の出品者の先生方の紹介もありました。統一会覧会が紹介されました。

中締めは顧問の小伏竹村にお願いし、とても充実した楽しい会が無事終了しました。



辻元理事長あいさつ



毎日書道会・西村修一専務理事あいさつ



新井光風先生を囲んで



展覧会の紹介



懇親会会場風景

李柏尺牘稿（李柏文書） 東晉時代 ①

〈解説〉20世紀初頭、スウェーデン人スウェン・ヘディン、イギリス人オーラル・スタインらがそれぞれ探検隊を組織し、西域を中心とする大量の木簡・残紙類を発掘した。一方、日本でも西本願寺の僧侶・橋瑞超（あおだにこうじょう）は明治41～42年（1908～1909）、大谷光瑞（おおたにこうじ）が派遣した第2次大谷探検隊の中央アジア調査で、

楼蘭遺址から「李柏尺牘稿」2点と39点の残紙などを発見した。この「李柏尺牘稿」は首尾そろそろ完備した書簡の草稿2通（縦25.5cm×横28.3cmと縦23.8cm×横39.5cm）で、当時の書風を知る上で貴重な資料である。現在は龍谷大学所蔵となっている。（写真図版は木鶲室の伊藤滋先生の提供です。）（編集部）

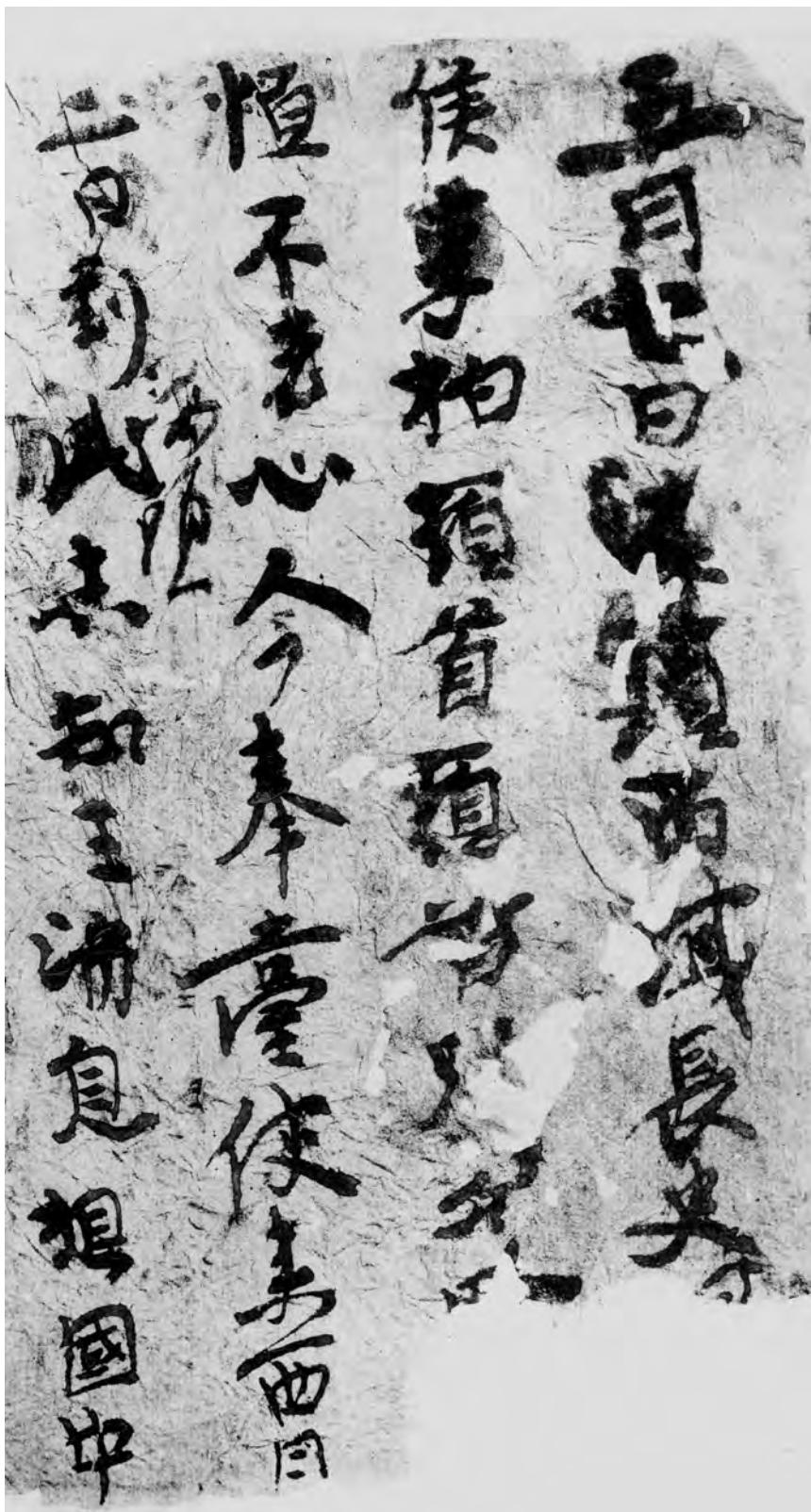
特別研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）

当該古典の左記掲載部分以外も可。

漢字研究部臨書課題

II（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。



（掲載図版90%縮小）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

五月七日・海頭西域長史・□□侯・李柏頓首頓首・別□以□・恒不<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>心・今奉<sub>二</sub>台使<sub>一</sub>來<sub>レ</sub>西・月二日・到<sub>二</sub>海頭<sub>一</sub>・未<sub>レ</sub>知<sub>二</sub>王<sub>一</sub>消息<sub>二</sub>・想國中

かな研究部臨書課題

**(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)**

左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇監  
(押印のみも可)

※掲載図版は84%縮小

**解説**「針切は、「源重之の子の僧の集」と「相模集」の二つの家集を書写した断簡である。もとはこの両家集を綵葉装の一帖に仕立てた冊子本で、楮質の素紙(縦22.8cm×横15.7cm)に書かれていい。その筆致が針のようく鋭いところから針切とよばれる。「相模集」は詞書がない。「重之の子の僧の集」は1首あて1~2行ほどの詞書があり、行間は均等にとる傾向にあり、一面の行数は一定していない。

(個人藏)

※古筆は原寸(以上も可)  
で臨書しましょう。

(図版は「重之の子の僧の集」より)

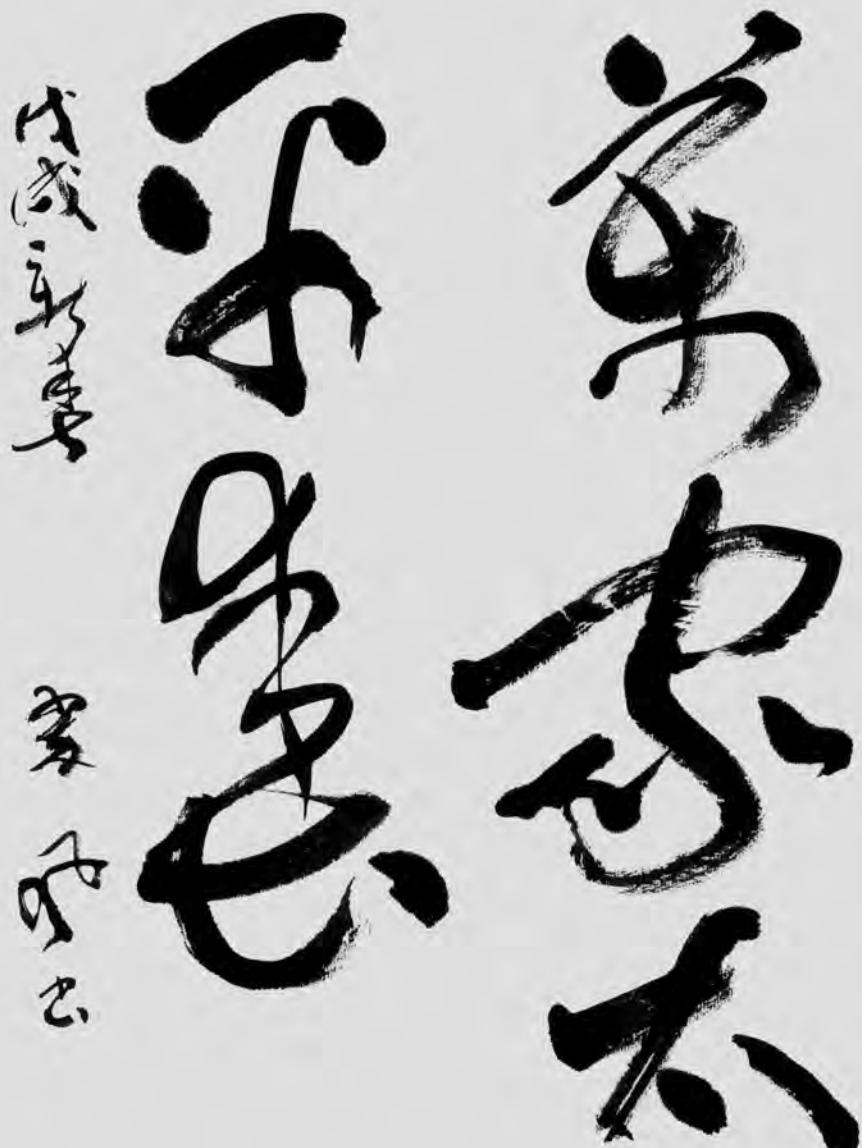
「の子の僧の集」は1首あて1~2行ほどの詞書があり、行間は均等にとる傾向にあり、一面の行数は一定していない。

る。その筆致が針のようく細く鋭いところから針切とよばれる。「相模集」は詞書がない。「重之

習い方解説 (四)

最首翠風

萬家太平春  
(鄭虎文)  
(萬家太平の春)



書体=自由

※提出作品には年号を入れても入れなくても可。  
今年は戊戌に当ります。戊戌  
(つちのえ) 戊戌(いぬ)  
戌—守る 紛らわしいので気をつけましょう。

不穏な昨今ですが、祈りを込めて書き初めにふさわしい語句を選びました。半紙だけでなく、例えば小雅仙半切¼サイズ（小型条幅と称することもある）など形式を変えて新春の気分を味わっては如何でしょう。勿論半紙という形式も含みますが、書き初めは子供だけのものではありません。  
十干十二支の年号を入れて古雅の趣を味わうのもよいし、書を学ぶ者の教養として覚えるべきことの一つです。

今年は戊戌に当ります。戊戌

萬家太平春 よみ（萬家太平の春）

漢字規定秀級以下【二月十五日締めきり】用紙半紙普通判

千葉蒼玄選書

## 習い方解説 (四)

千葉蒼玄

美意延年  
(蘇東坡)

心を美しくわだかまりがない  
と長寿となる。



褚遂良 雁塔聖教序

褚遂良は唐の三大家の中でも一番最後に出た人である。その作風は欧、虞の形を引き継ぎながらも、独自の伸びやかさを見せて楷書にリズムを感じさせてくれる。特に横画は「千里の雲がたなびく如し」というように、どこまでもゆったりと続く雲のようである。

比田井天来は、雁塔聖教序を研究し俯仰法を解明したという。筆軸を硬く持つては、このような柔らかい線は表現できないかもしない。

美意延年 よみ (美意延年)

書体=楷書

かな規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

## 習い方解説 (四)

平川峰子

うぐひすの鳴けどもいまだ降る雪  
すきの葉白き逢坂の山

(後鳥羽院)

鶯は鳴いているけれどもまだ降っている雪のために緑の杉の葉が白くなっている逢坂の山よ。

墨継ぎは杉でしました。落款は

全体のバランスを考慮して雅印だけにしても良いと思います。

かなの線の基本は紡錘形です。

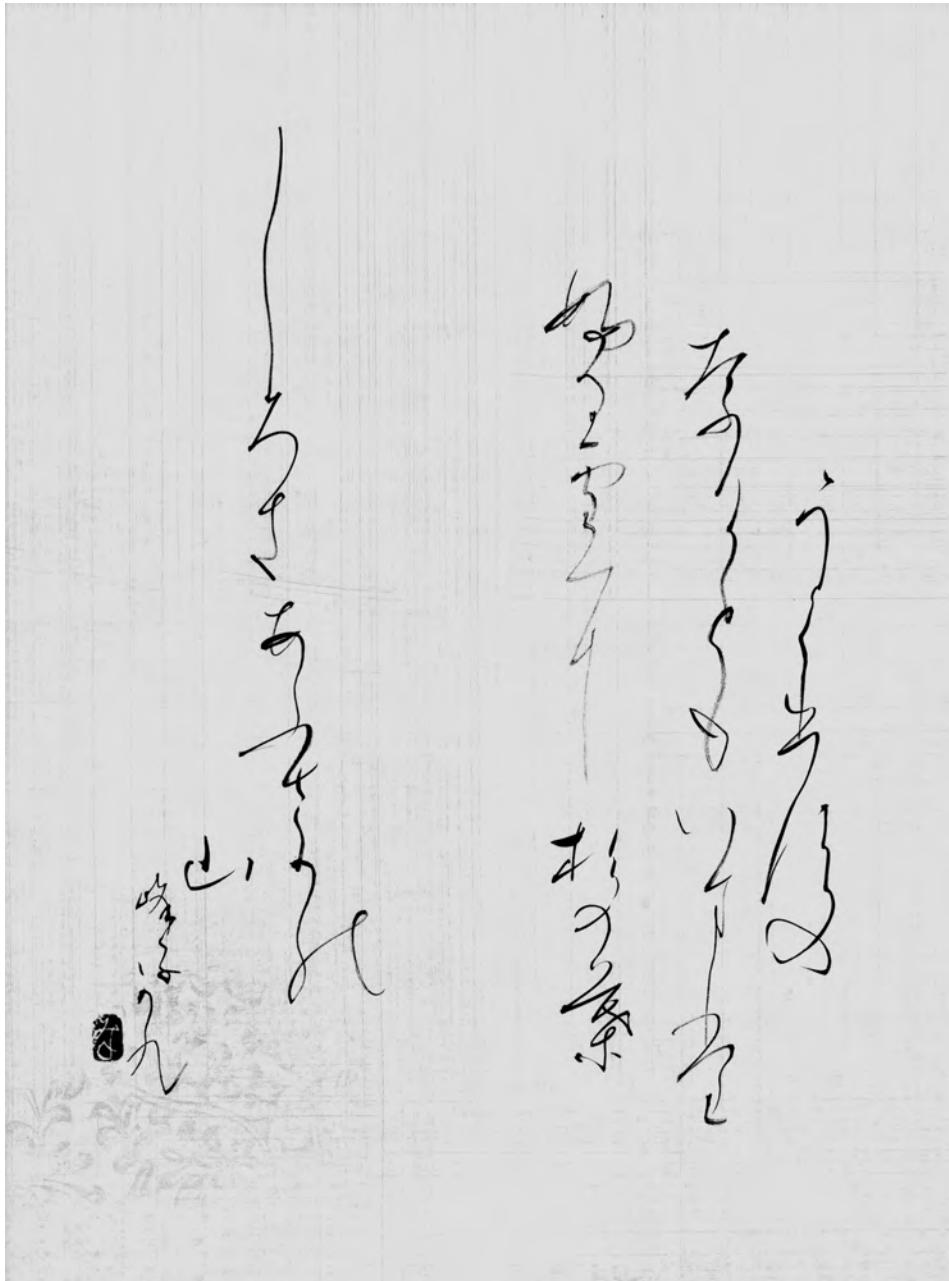
筆先で入って筆先で抜くとその形になります。ところが連綿になりますと転折ごとに骨格の確かさを出すための重要な筆使いがあります。「アタリを利かせる」「逆筆で

入る」と言いますが、起筆を書き進める方向と逆に入れて筆を突き、曲線ではゆったり運筆します。旋轉先のバネを利かせて突き返すテクニックです。

かなのリズムは、直線では速く、曲線ではゆったり運筆します。旋轉、波状など基本の線を反復練習することが大切です。

よみ方 鶯(うぐひす)の鳴(な)け(介)どもいま(万)だ(堂)降(ふ)る雪に(耳)  
杉の葉白(しろ)き(支)逢坂(あふざか)の(能)山

創作



かな規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大111%)

さくらばなはるひよ  
ひよあわやもむかし 伊勢

よみ方 さく(久)らば(者)な(那)は(者)るく(久)は(れるとしだに)(尔)も  
ひとのこゝろに(尔)あか(可)れやは(者)す(春)る 伊勢

かな条幅規定【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

庄司紅邨選書

庄司紅邨

### 習い方解説 (一)

ほととぎす鳴きつる方ながむれば  
ただ有明の月あさひぞ残れるのこる (藤原実定)

和歌2行書きの美しさは、平安古筆の時代から先人達は追求し、表現してきました。墨継ぎは、書き出し音と月ですが、墨量に工夫して、2行目の渴筆部分の表情と余韻に配慮して下さい。

左右の行間と書体のひびき合いにも注意が必要です。行の中心が最後部にきてわずかですが、中心寄りにすると落ち着きが出てきます。

よみ方 ほ(寶)とと(へ)き(起)す(春)鳴(那)き(文)つ(州)の方(可多)をながむ(牟)れ(禮)ば(八)  
ただ(多々)有明の(農)月そ(曾)残(乃)れ(禮)る(留) 留

創作

\* タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【二月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

## 習い方解説 (四)

名 越 蒼 竹



破額山前碧玉流 騰人遙駐木蘭舟  
（柳宗元）  
（破額山前、碧玉の流れ。驅人 遙かに駐む、木蘭の舟。）

書体＝自由



刻骨搜新句  
(骨を刻んで新句を搜す)

書体＝自由

漢字条幅規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大平邑峰選書

## 習い方解説 (四)

大 平 邑 峰

今回は、唐・九成宮醴泉銘を参考にしました。初唐の時代において楷書は完成された姿となりましたが、初唐の三大家はそれぞれ特徴ある書を残しています。背勢による謹厳で整齊なこの書は「楷法の極則」とされています。隋代の墓誌銘と比較しながら学書するのもおすすめです。

今回は隸書体の行草風とでも言える木簡の書き方をしてみました。生き生きとした運筆を心がけ、点画の強弱を積極的にすると雰囲気が出ます。自由で軽やかな書き振りが表現できたらと思います。王羲之は行草体の形と用筆を完成させましたが、現代人は古風に見えます。むしろ篆隸体の用筆・運筆を交えることで新味が出ます。

※タテ形式に限る

習い方解説 (四)

北村白琉

畑を過ぎる鳥の影

青々ひかる山の稜

雪菜の薹を手にくださ、

ひばりと川を聴きながら

うつづにひととものがたる

「春と修羅」より 白琉書

「春と修羅」は、宮澤賢治の生前に唯一刊行された詩集で、理想郷イーハトーブを歩く賢治の心象スケッチ69篇が収められています。その中の「青空文庫」より選びました。

漢字かな交りの文を書く時は、漢字とかなが調和するように書くことが大切です。かなは漢字より少し小さめに、かなの中でも、こ、と、め、るなどは、より小さめに書いて大小の変化をつけましょう。一字一字についても、点画の長短、方向、間隔等に留意して、調和のとれた字を書くよう努めてみて下さい。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

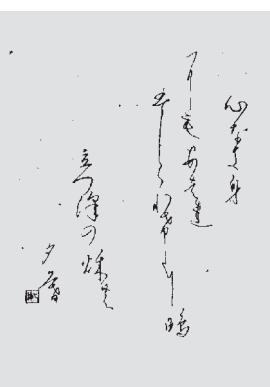
今月の

ホーリー作品  
各部総評 NO. 679

かな部 師範 加瀬 作穂

参考手本を鋭く深く研究して掌中のものとし、雰囲気のある世界を創り出し見事。印の大きさ再考。

◎かな部総評 動きが小さく表現不足が多く残念。又、澤は旧字体を使うこと。さわと誤読の人が多く使うこと。(明子評)



漢字条幅部 特選 北村 恵舟  
細太、曲直、潤渴の変化多彩な線。大小、疎密 正奇自在な字形の妙。魅力に溢れ、目に止った。



◎漢字条幅部総評 上級作品には誤字が少なからず見られました。校字の際に似ている別字と混同せぬ様注意して下さい。(萬城評)



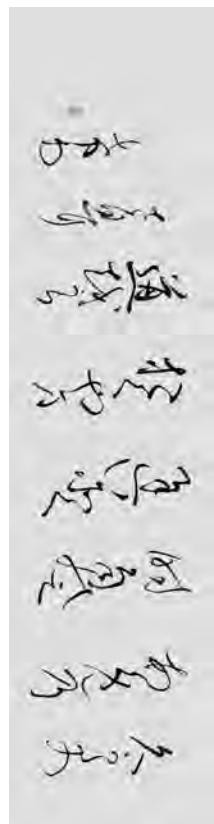
参考手本に添つて丁寧に書く姿勢がよい。終筆が止め気味なので、次の画に移るつもりで臨みたい。

◎かな条幅部総評 慣れない方は臨書同様先づ形を正確に捉えることから始めてほしい。その上で全体の調和を図りましょう。(洋子評)



現代詩文書部 特選 北村 恵舟  
これからチラホラと雪が舞うであろうと予感を感じさせる。温かく紙面空間が美しい作品である。

◎現代詩文書部総評 上手に書ことうとか読めるように書こうとかでなく空間を美しく。(素雪評)

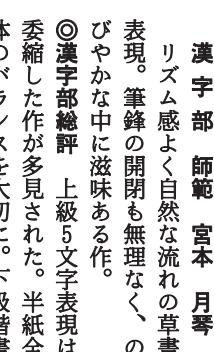


前衛書部 特選 金井みどり

巧みな筆遣い、空間の取り方など表現力が豊か。美しく、深みのある強韌な線条が魅力。

◎前衛書部総評 自由発想の豊かな表現作品が、少なからずあるよう思ふ。今後期待。(仙岳評)

漢字部 師範 宮本 月琴  
表現も同様工夫研究を。(大雲評)



ペン字部 師範 坂井 初江

穢やかで滑らかなタッチが字形の美しさを際立てる。清雅で爽快さあふれ、見事な表現力に敬服。

◎ペン字部総評 全体的に誤字も少なく、構成余白よく表現された作品が多かった。行書は粗雑ではないよう、丁寧に。(孝子評)



今日は今日は小、天の銀盤で  
雲がその面を  
どんどん侵してかけてゐる  
吹雪も光りだしたので  
太市は毛布の赤いズボンをはいた  
宮澤賢治「日輪と太市」より初注書

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

臨書 (宗苑社)

茂木絢水



茂木絢水臨

136×35cm

「一条摂政集」

部分拡大



◆古筆のもつ連綿の美しさを高め、行の傾きも自然で臨書の大さを感じさせる作品です。

(峰子評)

◆原帖の細やかな中に軽妙なリズムをよく読み取り、着実に安定した臨書作。筆端の切れ味が爽やかな作。

(大雲評)

◆一条摂政集の繊細ながら多彩な線、軽快な運筆、巧みな連綿などの特徴を忠実に捉えた臨書作。誠実な姿勢が伺える。

(紅瑠評)

臨書 (たかむら) 浜野永篁「伊都内親王願文」



浜野永篁臨

47×170cm

◆原帖の特徴をよく観察し、躍動感あふれる強い筆力、俯仰法等的確に描えた臨書作。書学の深さが表出している。

(紅瑠評)

◆俯仰法を駆使し、雄渾な書風の特徴が良く出ている。努力の跡が格調の高さにつながりました。

(峰子評)

◆氣宇雄大、緩急抑揚を備え筆の機能を十分生かした見事な臨書。重さと軽さの絶妙のバランスが良い。

(鄭街評)

◆ほぼ原帖通りの構成での拡大臨書はのびやかに余裕ある表現で安定感あり。日頃の修練が反映された作。

(大雲評)

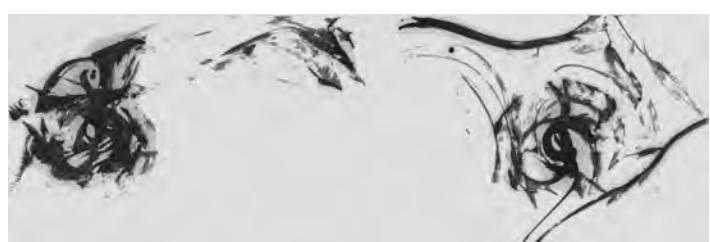
◆何より横作品としての構成が見事。左から右へと動きあるリズムが響き合い、よく空間をとらえ、余白も美しい快作。

(紅瑠評)

◆左から右へと天空を舞う如き広がりある作。濃い目の基線がほのかなにじみを伴い立体感ある作。

(大雲評)

前衛書 (大拙社) 畠中成山



畠中成山書

60×180cm

◆「風」というタイトル。左側部分から風が吹いて右側の「風」が大空を楽しげに舞っているような気持ちになった。

(鄭街評)

◆まん中に大きな余白を効果的に取り込み、体操で言うと床運動のような動きと回転力が見えました。

(峰子評)

◆一条摂政集をほぼ原寸で丁寧に臨書。連綿の長短、行の流れ、穂先の鋭さと弾力を生かした秀作。

(鄭街評)

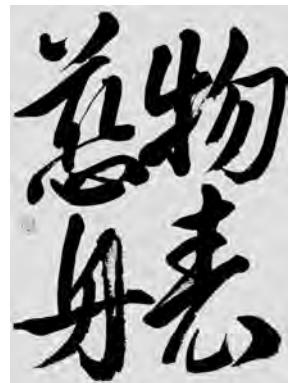
「風」



漢字研究部  
(伊都内親王願文)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



庄司 咲艸

漢字研究部 特選 庄司 咲艸

ではと想像しながら拝見しました。ただし用筆においては研究が必要です。正しい用筆により品格が保たれ、味わい深い臨書作品が生まれるものと考えます。解説にも「俯仰法が巧みに駆使され……」とありますが、俯仰法を正しく理解してほしいと感じた作品もありました。

重厚にして強い線、その上運腕大きく氣宇雄大な秀作です。加えて運筆に緩急の抑揚がありリズムを生み出しています。その結果、飛動変化の妙を感じます。

◎漢字研究部總評

全般に大きな動きのリズム感のある質の高い作品が寄せられました。自由奔放な運筆により書かれたこの古典は楽しく臨書できたの



直白晃舟幹直  
子羊代花生子

美真鈴翠白奎  
梢理風玉琴心

裕とし潤  
美子

桃春信  
華漱代

かな研究部  
(一条摺政集)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



美永山  
梢篁房

晃明香  
日代夏舟

雅清か  
つ泉洗え

シ翠幹  
ゲ子景生

かな研究部成績表		かな研究部	特選	境野	和子
華誠千椿生菊高 祥和葉翠大月陵	秀	彩童A宗澄有松桜蘭水大も大た若た正紅竜滌や上千う清 泉I苑春秋村草鼎海雲く葉か葉か華瑠泉春ま泉葉る	特選	じっくり丁寧に書かれている作が多く好感が持て います。一方で別の古筆を臨書したような作も散見 されたのが残念でした。古筆の特徴を把握しましょ う。	◎かな研究部総評
板石飯安新新會 垣崎田藤井木作	美	岸泉伊茂小石青苗川根黒森驚浜工小加須高深齋中松飯境 田水藤木川木代崎岸柳田山野藤林瀬田橋塙藤村重高野	明		
青甘光代翠勇 鳳雨彩子實子介	60	東龍寿絢輝洋玉佳優み竹藤美永山晃日香雅清しき 子宝子水峯子枝子葉谷梢草房代夏舟泉洗え子景生			
大も光紅 阪く彩瑠	佳	東蘭あ硯蓮大千樹は上明弘正蕙楓清大う千大も椿た澄泉八八 伯鼎か水翠紅雲葉原せ泉漢舟華書葵月雲る葉雲く翠か春泉街戸			
生新浅藍 駒井川澤	60	山森本宮三本堀平早長中塚嶋渋柴坂後小高草木菊河岡大梅樺今井市 本吉澤上田切山坂谷尾本谷田本藤林武刈村地合部島津田上川			
萩花雪江兆	白	真直明草裕美幸彩梅久恵え称美洋里良嘉玄眞順泰和久昌代紅貴芝紫 紀子香秋子雪雲華艸子子子美泉江城華子峰敬子子雨泉雲泉			

正秀竹己清玉椿春大墨石高白華澄長椿	蘭洞玉青高白雲千一玉有上誠澄雲の光竹澄英奥た千汐正白広N正ここ 華韻美未月川翠汀雲宣習子仙春月翠	鼎書松蓮陵珠溪葉宮松秋泉和春雀か彩美春峰田か葉風華島H草こ 高玉華真	正大正 華雲
鶯吉横山大谷安富三真松松牧前深平隠林瀬橋沼丹西仲戸鶴田工高新新下猿櫻櫻齋斎小河河久木神川川加加荻梅鶴伊礪石川知 沼川山根和知嶋野浦庭丸浦野川澤山尾田本田羽山西村田中山草谷行津渡田本藤林野保原田本藤原島藤原貝川知	由裕眞滿タ さかか美	木内	
将幸蘭美砂津道ケ愛王優瑛咲だつほ雅竹紅奎蕙游博雅耶花代翠瑞裕董龍智翠早純白蕙智輝典南温春翠玉久李英清津 太惠舟子江子子江子子江子子雪霞心子龍溪舟裕衣源子光華美右貞舟香苗風蕙子美子子汀子菜陽藻子名子耀			
富香竹春八八松八硯芳潮菊蒼樹京蘭附英幕正大長東梓広土大華樹澄大白明梅正た誠久蒼玉や蘭八日八あこ高姫大遊も白 貴書原汀生雲村街水蘭音月原原橋鼎中峰張華阪月向江島氣阪祥原春阪鷺漢桃華か和賀田川木鼎新生かだ崎和阪雲く珠			入
菅須代下篠七鹿佐佐齊斎齋紺近小國吉北木岸木菅川川金加葛加小乙小大大梅鶴岩今今伊市石石石石石五飯安天安青相 原賀田田條田々藤藤藤田野藤板峰瀬村島本暮野元本崎岡藤瀬野幡澤西木木澤潤井本川渡橋川井十島藤羽部木内	佳	佳	選50書
昌一葉代美裕志美雅江杏舞遊松さ琴彩蕙綾萩典靜茱紫一萩雅蕙夏萩智和一教簾琴祥む花京チ翠嘉代玲佳律裕明藤沙 子起子子子子美江蕙芳彩丘功夢山春ら翠雨舟音茜子代仙仙人美芳美峰光美子美譽山舟苑つ枝子子栄子子隆達莉			

明無千や高竹玉桜松菊こ声玉白長生前有大前上正さ東玉玉土遊北澄遊桂一大青さ倉耕大も春た玄天東玉若青旭樹玉も土 遷漢門葉ま真美川草村月だ香川露月大橋秋阪橋京華つ向松川氣雲原春雲草阪峰つ吉雲阪く汀か穹鐘実川松峰老原川く氣 外80	80吉山山山八森守茂宮宮宮漢松増牧別福廣春早林浜島長野西仁浪長中中中中中中中中土富戸渡橋千田高高高高高高高 名田中口口岸木本友木崎川内村田野府田地山部田山谷中澤澤木川村村西西島江井田部子泉葉口山原橋根木田 氏千真橋志妃喜と川喜と川み	み	由美
鶴清鈴律奈紀悦津翠英洋成美陽佳清信流美勝美よ芝千喜瓊彩光秋久笙一恵玉豊より弘萩藤紀雪陽代靖貞美千真志代利祥 子玉風子美舟子子子明子子子次子源幸美朗子子香峰子美峰堂花仙泉琴子泉作子枝彩風子董子子代薰朋子風			

## 〔特別昇級試験臨書課題〕

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を  
臨書する。掲載以外は違反となります。

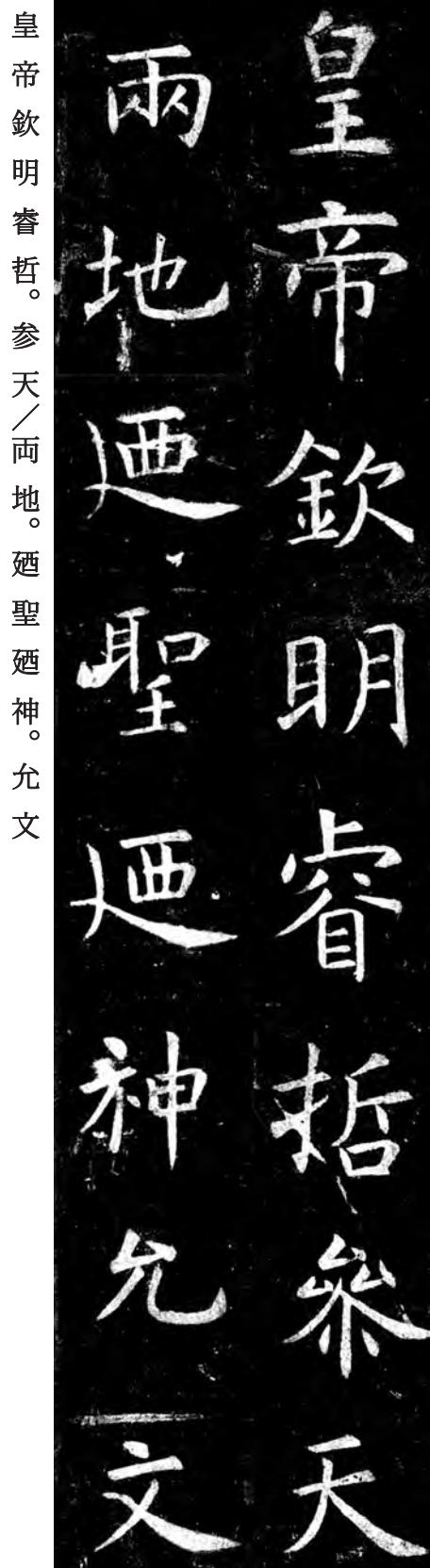


蘇慈墓誌銘（楷書）

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書



贈綏銀延三州刺史時公王父顯考立事建  
魏氏秦趙將分東西競

基泉法師

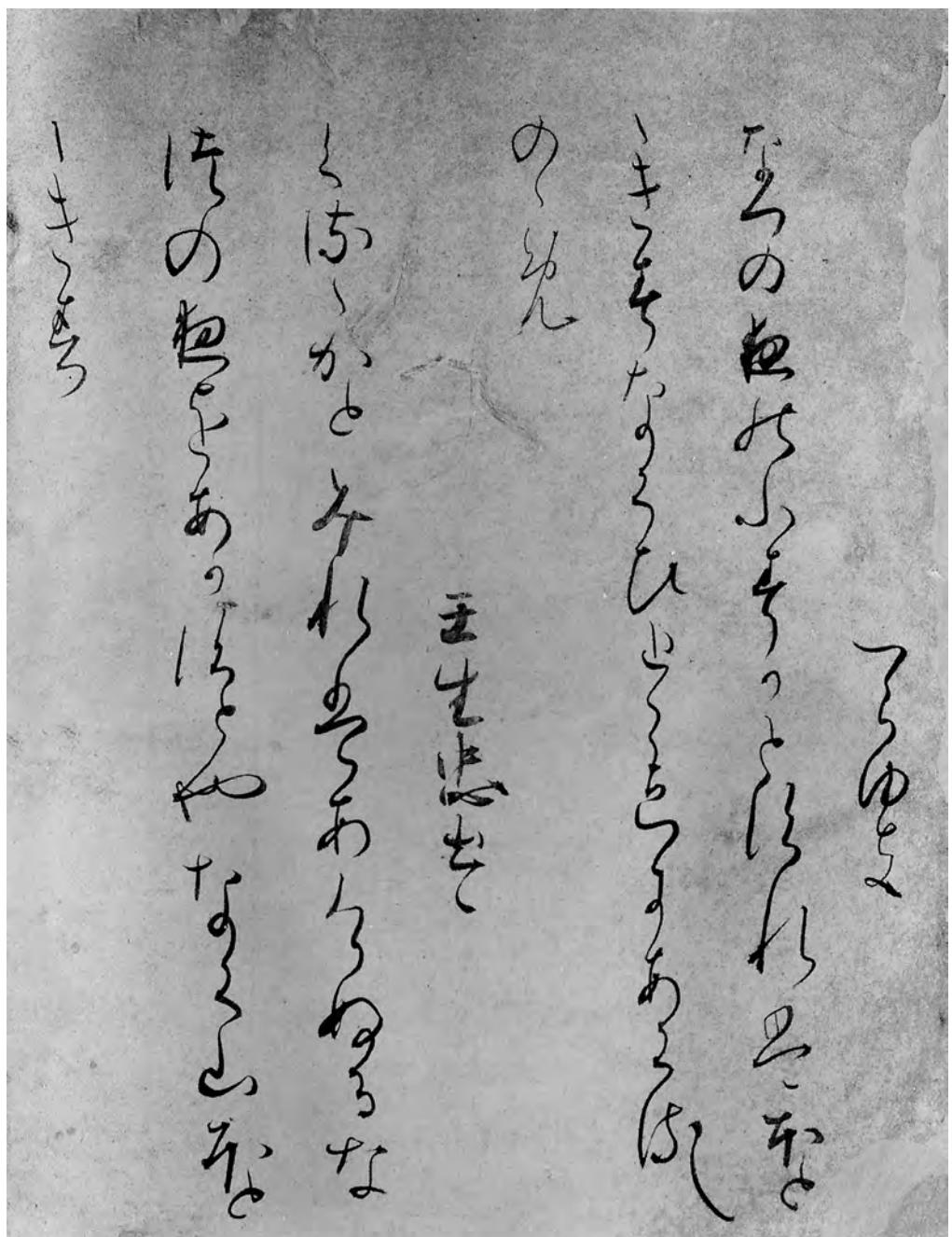
まつりやみやみよしまよ  
よまくわいとすくわ  
あくまうあくわいとすくわ  
いけむどめうめうめうめ

基泉法師 / 王可 本者  
わがいほはみやこのたつみしかぞすむ / 多徒 曹春 奈利  
よみびとしらす / あれにけりあはれいくよのやどなれや / 須利 介利 者  
よみびとしらす / あれにけりあはれいくよのやどなれや / すみけむひとのおとづれもせぬ 毛世 那

あてみやぢもよたへきくらうめい  
れきくきまくわくはあ  
うきまのきくわくはゆく  
わくまくわくわくはゆく  
新著  
十勝

あさみどりはるたつそらにうぐひす久春のはつこゑまたぬひとはあらじな能者  
うぐひすのこゑなかりせばゆき久春え久春めやまごといかではるをしらまし中務那御殿殿主

&lt;83%縮小&gt;



つらゆき支能／なつの夜春可のふすか久須とすれば盤本ほと／久ぎすなく久ひとこゑにあくるし／のめ  
壬生忠岑久流／くるかとみればあけぬるな／つ春の夜本をあかずとやなく山本ほと／久ぎす

料紙可

たて 13センチ×よこ 12センチの枠を

半紙に書いて、その中に書くこと。  
落款は枠外に書く。○○臨

押印のみ不可。

別紙を裁断して貼付してもよい。

△原寸大△

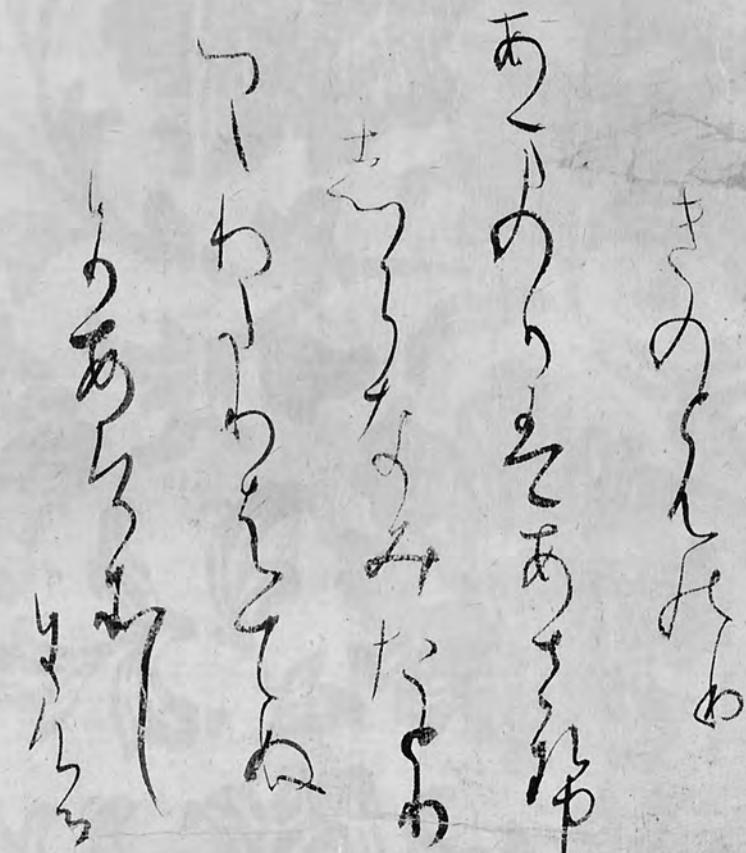
きのとものり

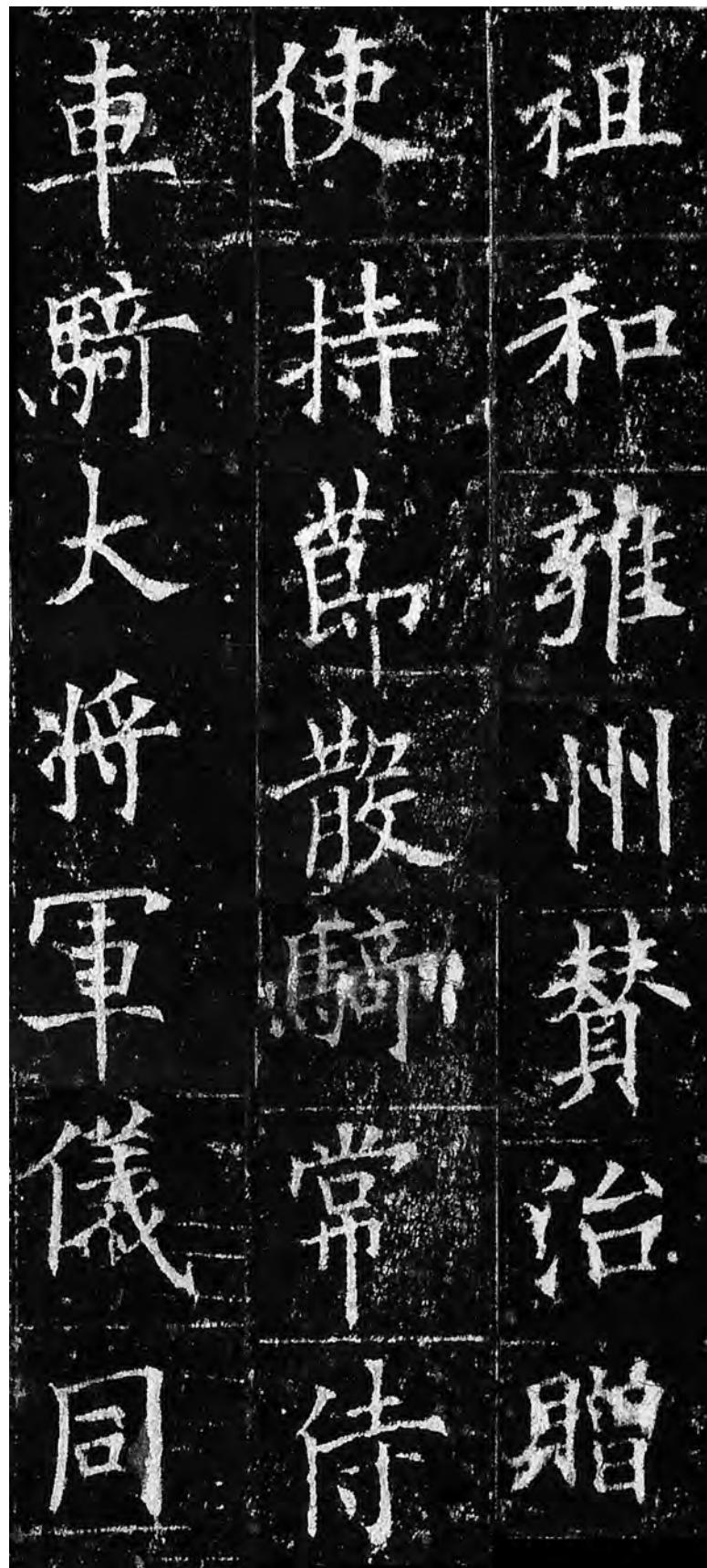
あまのがはあさせ

しらなみたどり

つゝわたりはてぬ

にあけぞし

に尔介  
ける



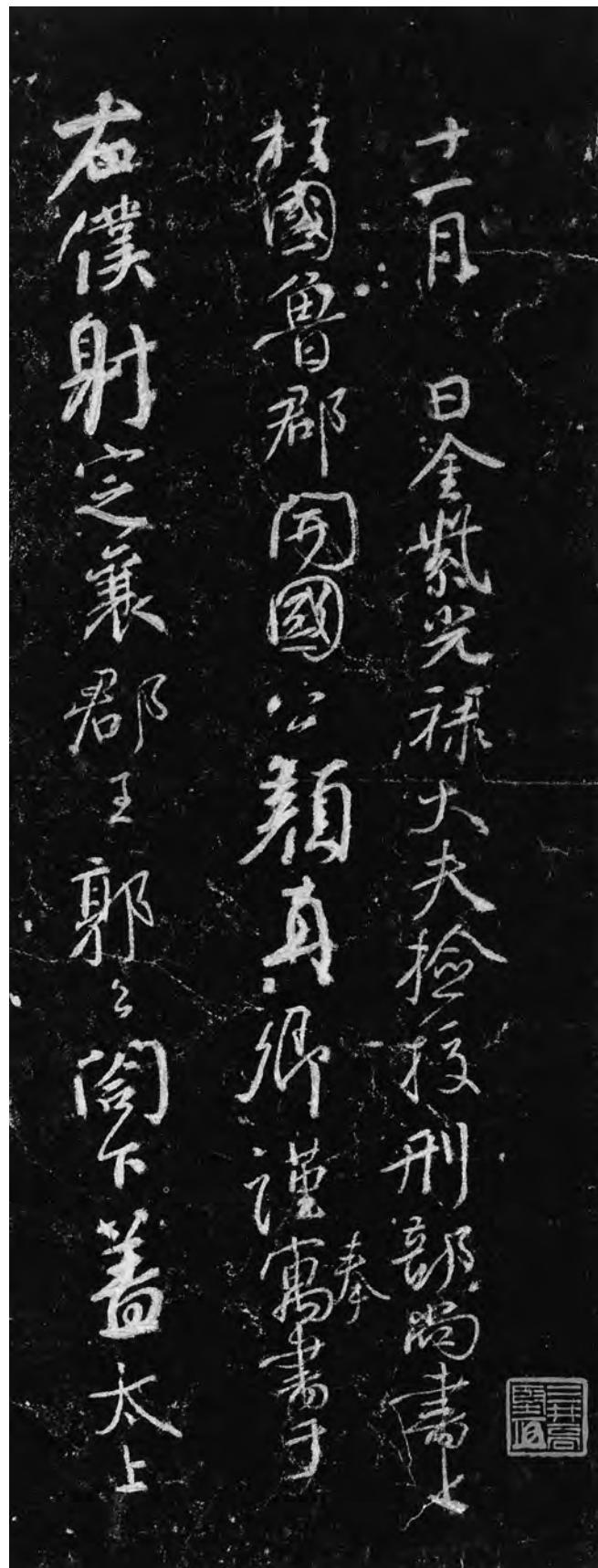
祖和。雍州贊治贈／使持節散騎常侍／車騎大將軍儀 同

爭座位文稿  
(行書)

漢字条幅部

第三種

半切に写真掲載の中から20文字を臨書



十一月 日。金紫光祿大夫檢校刑部尚書上柱國魯郡開國公顏真卿謹奉書于右僕射定襄郡王郭公閣下。蓋太上

勝様父也ニモ半且立オ初  
名ヲアヌる承様母ニモ皆  
ひきふたりシテ多シニシテ  
アリニシテ多シニシテ多  
アリニシテ多シニシテ多

稱勝父。不亦過乎。且立身揚／名。事資尊顯。勝母之里。曾  
參不入。以子敬之豪翰。紹右／軍之筆札。雖復粗傳楷則。

## 平成30年（公財）書道芸術院 年間行事予定表

		芸術院行事		展覧会関係	
月	日	内 容	日	展覧会名等	場 所
1月	5	仕事始め	2～8	第62回現代書道20人展	新宿高島屋
	27	第71回展審査会員・審査会員候補（作品搬入）	3～9	現代の書 新春展和光ホール26人展	和光ホール
	28	大賞選考	3～9	現代の書新春セントラル会場100人展	セントラルミュージアム銀座
	29	春華賞選考	4～9	2018毎日チャリティー書展	東京銀座画廊・美術館
2月	4	第71回書道芸術院展陳列	1～2	第70回毎日書道展運営委員会	
	4	第71回書道芸術院展記者会見	6～11	第71回記念書道芸術院展	東京都美術館
	6	作品解説会①（都美）14時00分～	6～11	第69回全国学生書道展	東京都美術館
	9	作品解説会②（都美）15時00分～	6～11	第49回現代女流書100人展	セントラルミュージアム銀座
	10	第71回書道芸術院展行事			
		・学生展表彰式（帝国ホテル）13時00分～			
		・表彰式（帝国ホテル）16時00分～			
		・祝賀会（帝国ホテル）18時00分～			
	11	作品解説会③（都美）12時00分～			
3月	10	理事会			
4月			12	毎日書道展事務局合同会議	如水会館
5月	12	監査・理事会	24	第70回毎日書道展審査員総会	国立新美術館
			25～27	第70回毎日書道展鑑別	国立新美術館
6月	9	評議員会	5/31～6/4	高野山競書大会審査	金剛峯寺
	16	理事会	28	第70回毎日書道展対策委員会	国立新美術館
	〃	第72回書道芸術院展運営委員会	29～7/1	第70回毎日書道展審査	国立新美術館
	〃	第72回書道芸術院展実行委員会			
7月	22	第70回毎日書道展書道芸術院祝賀会	4	第70回毎日展会員賞選考	国立新美術館
			5	第70回毎日展大臣賞選考	国立新美術館
			11～8/5	第70回毎日書道展	国立新美術館／東京都美術館
			22	第70回毎日書道展表彰式／祝賀会	ザ・プリンスパークタワー東京
8月	10	秋季展締切			
	13～15	夏期休暇			
	25～26	単位認定講習会（高知県／三翠園）			
	30	秋季展審査			
9月					
10月	1	秋季展陳列	2～7	書道芸術院秋季展	セントラルミュージアム銀座
	2	秋季展表彰式／研究会／祝賀会			
	17	第70回全国学生書道展作品締切			
11月	10/31～11/4	第70回全国学生書道展審査			
	23	創立記念日（上野精養軒）			
		理事・評議員会 10時30分～			
		講演会 14時～			
		懇親会 16時～			
12月	3	第72回書道芸術院展（無鑑査／一般）書類作品搬入			
	15～16	第72回書道芸術院展鑑別・審査（無鑑査／一般）			
	27	仕事納め			